

# 豊かに暮らす知恵 東北に

## 90歳に学ぶ「失われつつある44の価値」

環境に優しい未来の暮らし方をお年寄りの知恵に学ぶ「90歳ヒアリング」を基に、東北大学院環境科学研究所の古川柳蔵准教授（環境イノベーション）が「失われつつある44の価値」（表）をまとめた。古川准教授は「特に東北古来の生き方にヒントが多く隠されていた」と言う。

調査は19222（大正11）年前後に生まれたお年寄り450人以上を対象に全国で実施した。戦前の生活を大人として経験した人たちに当時の暮らしぶりを尋ね、分類・整理した。暮らしの中の価値は自然

### 東北大調査

環境の影響を受けやすく、冬の厳しい東北のお年寄りが重視する「保存食に頼る暮らし方」は、温暖な鹿児島県沖永良部島では比較的重視されていなかった。一方「物を大事にする」暮らしは全国共通だった。古川准教授は「大切な価値がいったん失われると、再び持続可能で心豊かな暮らし方を取り戻すのに相当の時間を要する」と指摘。「自然環境が異なる地域ごとに未来の暮らし方を構築したい」と呼び掛けている。

失われつつある 44の価値	1	自然と寄り添って暮らす	23	分け合う気持ち
	2	自然を生かす知恵	24	付き合いの楽しみ
	3	山、川、海から得る食材	25	人をもてなす
	4	食の基本は自給自足	26	出合いの場がある
	5	手間暇かけてつくる保存食	27	祭りや市の楽しみ
	6	質素な毎日の食事	28	行事を守る
	7	ハレの日はごちそう	29	身近な生と死
	8	野山で遊びほうける	30	大勢で暮らす
	9	水を巧みに利用する	31	家族を思いやる
	10	燃料は近くの山や林から	32	みんなが役割を持つ
	11	家の中心に火がある	33	子どもも働く
	12	自然物に手を合わせる	34	ともに暮らしながら伝える
	13	庭の木が暮らしを支える	35	いくつもの生業を持つ
	14	暮らしを映す家のかたち	36	お金を介さないやりとり
	15	1年分を備蓄する	37	町と村のつながり
	16	何でも手作りする	38	小さな店、町場のにぎわい
	17	直しながら丁寧に使う	39	振り売り、量り売り
	18	最後の最後まで使う	40	どこまでも歩く
	19	工夫を重ねる	41	ささやかなぜいたく
	20	身近に生き物がいる	42	ちょっといい話を話す
	21	暮らしの中に歌がある	43	ちょっといいあんばい
	22	助け合う仕組み	44	生かされて生きる

## 「環境に優しい生活構築を」

（2017年1月17日河北新報朝刊）

①あなたが最も重視する「価値」を一つ選び、下の例を参考にその理由を書いてみよう。

例) 「私は、16番の『何でも手作りする』を選びました。その理由は、既製品を買って消費するだけでは、緊急のときに何も作れずに困ってしまうからです」

※①の意見をグループ内で発表し、自分と違う価値を選んだ理由を聞いてどう思ったかをお互いに伝え合い共有しましょう。

年 組 名前

（中学校高校／総合・ホームルーム）